

大崎地域を世界農業遺産へ vol.25

大崎耕土の水管理基盤のつながり①「江合川流域の水管理」

大崎地域では、湯水・洪水・冷たく湿った風「やませ」による冷害という三重苦を克服するため、江合川と鳴瀬川という二大河川の水を巧みに利用した水管理基盤が中世より構築されてきました。現在では、大崎地域全体で取水堰など37カ所、隧道・潜穴(トンネル)など30カ所、1,152カ所のため池、そして約6,000キロメートルに及ぶ水路網が構築され、約30,000ヘクタールもの水田を潤すまでに発展しました。今回は、そのうち江合川流域にある特徴的な水管理を紹介いたします。

江合川の上流域にある鳴子温泉地域の山間地では、江戸時代より、険しい山に隧道や潜穴を開通させ水を通すことで用水確保の難しさを克服してきました。また、冷害への対応として、水温で稲を守るために水田に多くの水を貯める「深水管理」や、冷たい灌漑用水が直接当たらないよう迂回させる「ぬるめ水路」が行われています。鳴子温泉地域では、「ぬるめ田」と呼ばれる方法で、水を温めるためだけに一枚の水田全体を使う場合もあります。

また、江合川の中流域にある岩出山地域から美里町や涌谷町にかけて広がる緩やかな傾斜の水田地帯では、河川からの用水を無駄なく水田に行き渡らせるため、水を交代で水田に使い回す「番水」の仕組みが発達しました。水を使い回すために水路を区切る「堰上げ」は、数時間に一度の頻度で行う必要があるため、農家は昼夜を問わず管理に気を配っています。土地改良区が広域的な水管理を行う現在でも、伝統的な相互扶助組織「契約講」の知恵に由来する水管理の知恵は、現代の農業に活かされています。

江合川流域の山間部から緩傾斜地では、それぞれの環境に適応した水管理が行われています。それらの知恵に支えられた「水管理基盤のつながり」が、豊饒の大地・大崎耕土を育てています。



①深水管理。水を深く貯めて、稲を寒さから守る
②ぬるめ水路。用水を田の周囲へ迂回させ温めることで、冷たい水が直接水田に入らないようにする
③番水時の堰上げの様子。堰板を着脱して配水する

【問い合わせ先】産業政策課
世界農業遺産推進室
☎ 23-2281
sangyo@city.osakimiyagi.jp



9月1日現在の人口 (単位:人・世帯)

地域	男	前月比	女	前月比	計	前月比	世帯数
古川	38,187	+ 13	39,651	- 4	77,838	+ 9	31,056
松山	2,990	- 1	3,171	+ 2	6,161	+ 1	2,203
三本木	3,980	+ 1	4,015	- 5	7,995	- 4	2,689
鹿島台	5,849	- 2	6,246	0	12,095	- 2	4,554
岩出山	5,386	- 3	5,683	- 7	11,069	- 10	4,201
鳴子温泉	2,969	- 5	3,306	- 10	6,275	- 15	2,782
田尻	5,497	- 15	5,646	- 18	11,143	- 33	3,596
市全体	64,858	- 12	67,718	- 42	132,576	- 54	51,081

☎ 市政情報課統計担当 ☎23-5091

今月の納税

納期限：10月31日(火)

□ 軽自動車税	—
□ 固定資産税・都市計画税	—
☑ 市県民税	第3期
☑ 国民健康保険税	第6期
☑ 介護保険料	第6期
☑ 後期高齢者医療保険料	第4期
□ 個人事業税	—

☎ 納税課収納担当 ☎23-5148

空間放射線量の測定結果

(単位:マイクロシーベルト/h)

9月19日測定	地表面から1m	地表面から0.5m
市役所第2駐車場	0.05	0.05
松山総合支所	0.04	0.03
三本木総合支所	0.05	0.06
鹿島台総合支所	0.06	0.06
岩出山総合支所	0.06	0.06
鳴子総合支所	0.05	0.05
田尻総合支所	0.05	0.05

火災発生件数

(8月末日現在・右欄は前年比)

建物火災	15件	- 11
林野火災	0件	- 1
車両火災	5件	1
その他火災	5件	- 9
合計	25件	- 20

交通死亡事故件数

(9月15日現在・右欄は前年比)

発生件数	3件	+ 2
死亡者数	3人	+ 2

☎ 防災安全課 消防担当・交通防犯担当・放射能対策室 ☎23-5144

10月号の主な内容

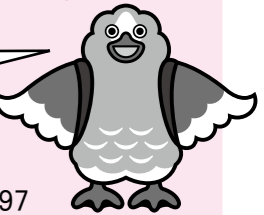
- ④ 統計が教えてくれる地域力
- ⑥ 10月22日は宮城県知事選挙の投票日です
- ⑦ 市職員の人数・給与などの状況
- ⑧ 平成30年4月1日に入所・入園する児童を募集します
- ⑩ わがまち企業訪問 vol.4 株式会社プロスパイン
- ⑪ おおさきの とっておきコレクション 第2回「和牛のオリンピック」
- ⑫ 市政トピックス 9月の主な出来事
- ⑬ 地域発!お・ら・ほ・の・ま・ち
- ⑭ オオサキプレイガイド
- ⑯ 今月のお知らせ 移動市長室を開催します ほか
- ⑳ 子育て支援情報
- ㉑ 育児相談・乳幼児健診
- ㉒ 休日当番医 ほか

ピタ崎さんの観光ひとくちメモ

その15

観光プロモーションビデオ完成!!

☎ 観光交流課 ☎23-7097



先月の広報おおさきでお知らせした、大崎市の観光プロモーションビデオが完成しました! インターネットで「大崎市PRビデオ」と検索すると、見る事ができるよ。
ほくも、ご当地キャラ友達のなる子ちゃん、岩出山おっちゃんと一緒に、「旧有備館」で元気いっぱい踊っているからぜひ見てね!
大崎市自慢の絶景スポット「鳴子峡」、寶石のようにきれいなブルーの「湯沼」、

42万本のひまわりで黄金色に染まる「ひまわりの丘」を空から眺めるような、ドローンを使ったカッコいい映像も見逃さないよ。
でも、一番の見どころは参加してくれたみんなの「笑顔」なんだよね。大崎市の一番の観光資源はみんなの笑顔だってことを、見た人がきつと感じてくれる、そんな素敵な映像になっているよ。
みんなもぜひ見て感想を聞かせてね!

今月の表紙

9月1日~3日、第63回全国こけし祭り・第27回鳴子漆器展が開催されました。伝統の祭りには延べ5万人の来場客が訪れ、鳴子温泉が熱く盛り上がりました。メイン会場の鳴子小学校では、伝統こけしの展示即売を目当てに、開会前から多くの客が列を作りました。



30周年を迎えた「鳴子神輿」

見どころの一つであるフェスティバルパレードは2日夜に行われ、鳴子おどり、張りぼてこけし、万燈神輿などが、迫力満点に温泉街を行列しました。中でも、21体の巨大な張りぼてこけしの練り歩きは、どこかユーモラスで独特な空間を作り出して観光客を沸かせていました。

市長コラム

天地人

和牛のオリンピック!

9月7日から11日までの5日間、第11回全国和牛能力共進会が本県を会場に開催され、わたしも実行委員会副会長として祭典に参加してまいりました。

この共進会は5年に1度開催されており、「和牛のオリンピック」とも呼ばれ、日本の食文化を支える和牛の魅力を広く発信するものであります。

今年、全国39道府県から過去最大の513頭が出場。9部門で競い合い、40万人を超える来場者が詰めかけました。宮城県勢は各部門で上位入賞を果たし、団体表彰でも過去最高の第4席受賞と大躍進でした。

本市からは種牛の部で4頭、肉牛の部で1頭が出場し、堂々の入賞を果たしました。祝意と敬意を表します。

日本に牛が伝えられたのは弥生時代、稲作伝来と共に、田を耕作する牛を日本に持ち込まれたといわれています。

おります。同時に牛は信仰の対象にもなりました。平和の象徴として敬意を持ってみられ、浮世絵や絵馬、玩具、切手、絵はがきに描かれております。
現在では、田畑を耕す牛の姿はほとんど見られなくなり、肉専用が主流となり、わたしたちの食生活に欠かせない存在です。
大崎地方には、仙台牛の生みの親「名牛」茂重波号を育んだ宮城県畜産試験場があり、霜降り牛を育てる良質米の稲わらの産地でもあります。また、年間2万頭が扱われている、全国有数のみやぎ総合家畜市場もあります。
恵まれた環境、資源、素材を生かし「和牛の里大崎」を確立してまいります。



大崎市長 伊藤 隆志